

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき ユニット名 1F 櫛		
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17		
自己評価作成日	平成27 年 9 月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様と職員が一緒に生活を送ることで、一方的な介助にならない共同生活を送れるように支援を行っていきたく思います。また、イベントなど行い、気分転換を図り意欲の向上や楽しみをもって生活を送っていただくことを大切に考えています。医療的な面では、関係医療機関と連絡を密に取っているため、入居者様、ご家族にも安心していただいていると思います。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 27 年 9 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>大崎八幡神社から作並方面に約1.5km進むと作並街道沿いに法人が経営する病院、社のホスピタルあおばがあり、更に1.7km進むと作並街道沿いの木立の中に「グループホーム みたき」がある。開設1年目のホームは、「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念を掲げ、実践している。医療福祉と介護の連携、看取りの体制もある。家族的な環境と入居者の笑顔が絶えないホームであることが職員の自慢でもある。認知症ケアについてよく理解し、日々変化する入居者の気持ちを大切にケアすることを心掛けている。「家族的」、「表情が明るくなった」という家族の評価も得ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム みたき)「ユニット名 1F 樺 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の施設ということを意識し実践していると思います	「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念を実践している。定期的な職員ミーティングの場は、入居者に寄り添ったケアの提供、笑顔が絶えないホーム作りの話し合いの機会としている。	法人理念を基に、職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム理念を作り上げることが期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の資源回収や、グループホームの夏祭り、日常の散歩、雪かきなど事業所全体で地域に根差していこうとしています	子供会の資源回収の協力や散歩等で日常的に交流がある。七夕飾りを作る時は、近所の方が竹を届けてくれる。大崎八幡神社のどんど祭、文殊堂のお祭りに参加し、地域住民と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援までは行っていないが、外に出ることでどのような方が入所していて、スタッフがかかわっている姿は見せられていると思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ででた意見を参考にサービスの向上を図っています	ホームができてから交通量が多くなったという意見に、「飛び出し注意」の看板設置等に対応した。開設1年目で、地域の高齢者福祉の拠点になっていることが、提案や質問の多さからよくわかる会議録になっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方とは、連絡を取っています	定期的に地域高齢者の状況やホーム入居状況等を情報交換している。介護職員の接遇、メンタルヘルス等、市や地域包括支援センター等が開催する研修に参加し協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間玄関を施錠しているがそれ以外施錠はしておらず、身体拘束をしないことの研修会や、拘束をしないことを日頃より実践しています	マニュアルを作成し、身体拘束防止に取り組んでいる。研修会では、一人ひとりの入居者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除く具体的なケアについて話し合い、対応している。「ちょっと待って」等、言葉での拘束が起らないよう職員同士が気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを含め、スタッフの意見を聞き虐待が見過ごされないように、不適切なケアがないかどうか注意を払っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修は受け、必要であれば他の方とも相談しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明をしています が、中には十分な理解をいただけないご家族もあり、その都度説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を聞くとともに、積極的に話すことにより、さまざまな意見をお伺いして、反映させています	家族からスポーツ民謡や陶芸教室の提案、ボランティアの紹介があり、運営に活かしている。来訪の際は、職員から先に声かけ、入居者の状況を説明し、積極的に意見・要望を引き出し、信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは全体的に、また個別に意見を聞き、提案があれば検討を行っています	入居者の好みに合わせた食事メニューや外出の企画、誕生会を盛り上げるDVD作成など、入居者本位の提案が多い。入浴介助の負担軽減のため、回転座椅子活用の提案があり対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時の自己評価、上司による評価と伝達を実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部介護研修の受講を進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部向けの研修会などを行うことによりネットワークづくりを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様ひとりひとりとお話をするにより、入居者様の不安感や心配事を聞き出し、安心していただけるように声かけを行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、どのような事が困っているのか、心配事が何なのかを聞き取りし関係づくりをするように心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活のなかでその方が何が必要なのかを検討し支援を行うかを決定しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事はしていただきながらホームでの生活を送っていただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来るだけご本人に関わっていただけるように状態の説明や、行事のお誘い等を連絡し来所を促しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるように支援を行っています	毎月、友人の訪問がある。「覚えて貰えてうれしい」と訪問理容との新たな関係もできた。他の施設にいる姉妹に逢いに行ったり、法人開催のコンサートを家族と一緒に楽しむなど馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように入居者様同士が関わり合いを持てるように声かけ等を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様、ご家族の情報を把握しつつ必要があれば相談を受けています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にとってどのような事がいい状態なのかを検討し、生活をしていただけるように支援を行っています	家事が好きな入居者に洗濯物を干す役割、郷土料理のおくずがけを食べてみたいと言ったときは一緒に料理を作るなどしている。日々の表情や状態に合わせて本人にとって心地よい事を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを行い生活歴の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士で申し送り等を行い、入居者様の状況について把握できるように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成しているつもりですが、ご家族へは現状の報告が多くなくなってしまっています	車イスを動かすことができなかった本人・家族の意向で「ホーム内自力走行」の目標を立て、達成した。日々の気づきを具体的に介護記録に記入し、元々持っていた能力を引き出したり、役割を広げる支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有を図り介護計画に生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況を考慮し、いろいろなことを提案し柔軟な対応で支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや病院の相談員とも連携をとって支援を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも医療的な相談を行い、適切な医療が行えるように支援をしています	かかりつけ医による年1回の健康診断、月2回の定期的な往診がある。入居者が専門医を受診するときは、検査結果データ、日々のバイタルデータを提供し、家族と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職、訪問看護師との連携を取り、受診や看護の支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には退院後の受け入れについて話し合い、情報交換を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入居時にご家族と話し合いを行っています。	終末期で受け入れた入居者の看取り経験がある。入居時に重度化や終末期に向けた方針を文書で説明し、本人・家族の意向を確認、同意を得ている。終末期を迎えた時期には、再度話し合い、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については今後定期的な訓練を行い、実践力を身に付けていきたいと思えます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を定期的実施し、避難方法についてはスタッフ全員が確実に対応できるようにしていきたいと思えます	6月に夜間想定で避難訓練した。消防署員から「初期消火する時は、逃げる方向を背にして行うこと」の助言があった。訓練記録として、2階の入居者の避難誘導方法の反省などが残されている。	火災発生時は、避難誘導、避難者の見守り等、職員が対応することは多い。夜間の避難誘導を想定して、年2回以上の訓練と地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を尊重して対応しています	プライバシーの尊重、羞恥心への配慮等の研修会を定期的に行っている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、「自分がして、されて納得できるか」を日々の話し合いの中で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に意見を求めたり、希望の有無については確認して行い一方的にならないようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大事に日常生活を送っていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶときにはご本人に確認したり、ネイルケアなどを行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は嚥下の状態に気をつけながら、スタッフも間に入り食事をしながら入居者様と一緒に片付けや、洗い物をしています	季節の食材を使い、入居者の希望に沿ってメニューを決める。おはぎ等、入居者の指導と一緒に作ることもある。天気の良い日は公園で季節を感じながらお弁当を食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が確保できるように記録をつけ、食事量などにも気を配っています。水分にとろみが必要な方にはとろみをつけて提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うように声をかけたり、ご自分で出来るようにイラストを描いたり、支援が必要な方の口腔内の状態について観察を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導を行い、ご本人が快適に過ごせる排泄環境を提供できるように支援を行っています	日々の排泄パターンと一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。夜間は睡眠優先で、本人の希望があればトイレ誘導する。話すことが困難な入居者が表情や指さしで尿意を訴えるようになった等の改善もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を取り入れたり、水分は十分に取れているかを検討したり、ヨーグルトなどを食べてもらったりと予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を決めてはいますがそれに縛られずに個々に沿った支援を行っています	ホームでは家庭浴槽を設置している。「今日は何色だ」と入浴剤を楽しみにしている入居者もいる。入浴を拒否したときは、時間をおいて声をかけ、本人の希望やタイミングに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入居者様が、休息したり、入眠できるように支援を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については、用法、用量については理解しているが全スタッフが副作用までを理解はしていない。内服薬等の変化時には申し送りで行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りご本人の嗜好品なども取り入れたり、様々なイベントへ参加することで気分転換を図っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントなどで屋外へ出かける支援は行っています。その日の突発的な外出には対応は出来ませんが日を改めての外出、ご本人が希望するようなどころをご家族から聞いての外出などは行っています	花見や紅葉の時期は、ドライブに出掛けている。手芸用品等の買い物やペット見学、コボスタ宮城でのプロ野球観戦など本人の希望にそって、出来る限り支援している。法人本部で毎月開催する仙台芸妓の踊りやコンサートへ出掛け家族と一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればかけたり、つないだりしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事や、話題を出したり野菜を栽培したり季節感を取り入れています。トイレの自動ライトに若干混乱される方もいますが、スタッフの声がけで対応できています	居間の窓からホームを囲む木立を眺め、四季の移り変わりを感じることができる。入居者の歓談の場となっている座面が畳のベンチは、組み合わせを変えて茶席に作り替え、お茶会を楽しんでいる。ホーム内はエアコンで適温が保たれ過ごし易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況を確認しつつ、気の合った利用者様同士で過ごしたりひとりで過ごしたり思い思いに過ごしてもらえるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでいただいたり、ご本人が過ごしやすい環境をつくように工夫をしています	居室は、エアコン、加湿器が設置され、適温が保たれている。部屋には、使い慣れた家具が配置され、思い出の写真や絵が飾られている。家族の遺影に、毎日手を合わせている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様ひとりひとりに出来ることをお手伝いし頂いています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	2F 蕃山
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17		
自己評価作成日	平成 27年 9月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活の中で笑いが絶えない楽しい生活を職員と共に送っていただき、興味のあることはトライできるように提案し行っています。イベント等を実施し、地域の方に認知してもらえるように継続していきたいと考えます

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 9月 25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大崎八幡神社から作並方面に約1.5km進むと作並街道沿いに法人が経営する病院、社のホスピタルあおばがあり、更に1.7km進むと作並街道沿いの木立の中に「グループホームみたき」がある。開設1年目のホームは、「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念を掲げ、実践している。医療福祉と介護の連携、看取りの体制もある。家族的な環境と入居者の笑顔が絶えないホームであることが職員の自慢でもある。認知症ケアについてよく理解し、日々変化する入居者の気持ちを大切にケアすることを心掛けている。「家族的」、「表情が明るくなった」という家族の評価も得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム みたき)「ユニット名 2F 蕃山 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して出来ていると思います	「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念を実践している。定期的な職員ミーティングの場は、入居者に寄り添ったケアの提供、笑顔が絶えないホーム作りの話し合いの機会としている。	法人理念を基に、職員全員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム理念を作り上げることが期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの周囲の散歩やイベント、冬季の雪かきなどを行っています	子供会の資源回収の協力や散歩等で日常的に交流がある。七夕飾りを作る時は、近所の人々が竹を届けてくれる。大崎八幡神社のどんど祭、文殊堂のお祭りに参加し、地域住民と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様に付き添い、周辺を散歩し会話をすることで理解を得られると思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考に今後の向上に生かしていきたいと考えます	ホームができてから交通量が多くなったという意見に、「飛び出し注意」の看板設置等に対応した。開設1年目で、地域の高齢者福祉の拠点になっていることが、提案や質問の多さからよくわかる会議録になっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取り、協力関係を築けるように取り組んでいきたいと思えます	定期的に地域高齢者の状況やホーム入居状況等を情報交換している。介護職員の接遇、メンタルヘルス等、市や地域包括支援センター等が開催する研修に参加し協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を行い、その実践は出来ていると思います	マニュアルを作成し、身体拘束防止に取り組んでいる。研修会では、一人ひとりの入居者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除く具体的なケアについて話し合い、対応している。「ちょっと待って」等、言葉での拘束が起らないよう職員同士が気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を行い、その実践をし、注意を払っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後関係各所と相談していきたいと思えます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、改定時には再度説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族代表の意見を聞くだけでなく、面会時などに積極的に話ことで運営に反映できるようにしています	家族からスポーツ民謡や陶芸教室の提案、ボランティアの紹介があり、運営に活かしている。来訪の際は、職員から先に声かけ、入居者の状況を説明し、積極的に意見・要望を引き出し、信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き、提案があれば検討し運営の改善に努めています	入居者の好みに合わせた食事メニューや外出の企画、誕生会を盛り上げるDVD作成など、入居者本位の提案が多い。入浴介助の負担軽減のため、回転座椅子活用の提案があり対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時の自己評価、上司による評価と伝達を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部介護研修の受講を進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部を招いた研修会などを行い、ネットワーク作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や、随時お話を傾聴することで安心をしていただき、ご本人に寄りそった関係づくりを目指しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に現在の状況や、お話をすることでコミュニケーションをとっています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人もご家族様も安心していただけるように支援をおこなえるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は出来るだけしていただき、家事などで協力を得ています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、面会や電話連絡等で関わって頂いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を大切にしてコミュニケーションを密に取っています	毎月、友人の訪問がある。「覚えて貰えてうれしい」と訪問理容との新たな関係もできた。他の施設にいる姉妹に逢いに行ったり、法人開催のコンサートを家族と一緒に楽しむなど馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も入居者様の会話の輪の中に入り、入居者様同士が関わり合い、孤立しないように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、相談があれば受けようとしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に出来るだけ近づけるように取り組んでいきたいと考えます	家事が好きな入居者に洗濯物を干す役割、郷土料理のおくずがけを食べてみたいと言ったときは一緒に料理を作るなどしている。日々の表情や状態に合わせて本人にとって心地よい事を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴の情報を把握するようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で申し送り等を行い、入居者様の情報を共有するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に合わせた介護計画を立てていると思いますが、ご家族へは現状報告が多くなっています	車イスを動かすことができなかった本人・家族の意向で「ホーム内自力走行」の目標を立て、達成した。日々の気づきを具体的に介護記録に記入し、元々持っていた能力を引き出したり、役割を広げる支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で情報を共有し、介護計画に反映させています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族へは随時連絡を取り報告し支援いただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや病院の相談員へ連絡を行い、支援の連携を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時に主治医と相談し、ご本人が納得できる医療を支援しています	かかりつけ医による年1回の健康診断、月2回の定期的な往診がある。入居者が専門医を受診するときは、検査結果データ、日々のバイタルデータを提供し、家族と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職、訪問看護師と情報を共有し、往診時や他科診療時へ支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報連絡を密に行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合どのようにするか話し合いをしています	終末期で受け入れた入居者の看取り経験がある。入居時に重度化や終末期に向けた方針を文書で説明し、本人・家族の意向を確認、同意を得ている。終末期を迎えた時期には、再度話し合い、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡表を使用し、報告相談するようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施して避難方法を身につけていきたいと思っております	6月に夜間想定で避難訓練した。消防署員から「初期消火する時は、逃げる方向を背にして行うこと」の助言があった。訓練記録として、2階の入居者の避難誘導方法の反省などが残されている。	火災発生時は、避難誘導、避難者の見守り等、職員が対応することは多い。夜間の避難誘導を想定して、年2回以上の訓練と地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の尊厳を尊重し、ケアを行っています	プライバシーの尊重、羞恥心への配慮等の研修会を定期的に行っている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、「自分がして、されて納得できるか」を日々の話し合いの中で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に希望を聞いたり確認してケアを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の生活のペースを大事にして生活を行っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだり、ヘアカットの希望を伺っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時希望を伺ったり、調理や盛り付けなどを手伝ってもらっています	季節の食材を使い、入居者の希望に沿ってメニューを決める。おはぎ等、入居者の指導と一緒に作ることもある。天気の良い日は公園で季節を感じながらお弁当を食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や、水分の量を記録に残し評価しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、介助が必要な方には介助を行い口腔内を観察しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてオムツを選択し、トイレへの誘導を行っています	日々の排泄パターンと一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。夜間は睡眠優先で、本人の希望があればトイレ誘導する。話すことが困難な入居者が表情や指さしで尿意を訴えるようになった等の改善もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、飲食物や運動を促して排便を促すようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望の時間に合わせ、入浴剤などを利用し入浴を楽しんで頂いています	ホームでは家庭浴槽を設置している。「今日は何色だ」と入浴剤を楽しみにしている入居者もいる。入浴を拒否したときは、時間をおいて声をかけ、本人の希望やタイミングに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の入床の時間を設定せず、その時の体調やご本人の希望に沿って休める環境を作っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時内服の必要を説明し、内服の工夫をして頂いています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の嗜好品を把握して提供したいと思えます。また、皆様でイベント等へ参加していただき気分転換が出来ていると思えます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の外出やイベントへの参加はしていますが、急な外出は出来ていません。ご家族から希望を聞き外出の支援を行っていきたいと思えます	花見や紅葉の時期は、ドライブに出掛けている。手芸用品等の買い物やペット見学、コボスタ宮城でのプロ野球観戦など本人の希望にそって、出来る限り支援している。法人本部で毎月開催する仙台芸妓の踊りやコンサートへ出掛け家族と一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員付き添いの下、各入居者様と買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしかけたり、手紙の取次ぎは行っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの催しや、季節感ある食事を提供しています。トイレの照明が自動センサーのため使用に戸惑う方もいますが、声がけで対応できています	居間の窓からホームを囲む木立を眺め、四季の移り変わりを感じることができる。入居者の歓談の場となっている座面が畳のベンチは、組み合わせを変えて茶席に作り替え、お茶会を楽しんでいる。ホーム内はエアコンで適温が保たれ過ごし易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の今の状況を観察して、状況に合った過ごし方で過ごして頂いています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたものや、気に入っているものを持ち込んでもらい過ごしやすい環境を作るようにしています	居室は、エアコン、加湿器が設置され、適温が保たれている。部屋には、使い慣れた家具が配置され、思い出の写真や絵が飾られている。家族の遺影に、毎日手を合わせている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様には出来る事は見守りで行ってもらい、季節の作品を作ることで今がいつごろなのかわかっていただくようにしています		